

大阪市子どもサポートネット

事業目的

背景

平成28年度に実施した「子どもの生活に関する実態調査」から見えた4つの主な課題の1つに、「必要な支援制度が届いていない」という課題があった。

課題

- 学校
 - 保健福祉制度等に関する知識が十分でなく、現場のみでの対応が困難である。
- 区役所
 - 制度を届けるべき課題を抱えた世帯の把握が困難である。

大阪市子どもサポートネットの構築

- すべての子どもたちの状況を把握する
- 子どもと子育て世帯に必要な支援につなげる

学校生活や家庭生活・家庭環境、経済的困窮等の課題を抱えた子どもと子育て世帯を学校において発見し、区役所等の適切な支援につなぐ仕組みを子どもの貧困対策として区長マネジメントにより構築。地域資源も活用しながら子どもと子育て世帯を総合的に支援する。

事業内容

学校

スクリーニング会議Ⅰ（教職員会議）

- スクリーニングシートの内容を共有し、課題を抱える子どもと子育て世帯を発見する
- 区役所等と合同アセスメントが必要なケースは、こサポ連絡票を作成し、スクリーニング会議Ⅱを実施する

スクリーニング会議Ⅱ

- 学校と区役所等による合同アセスメントが必要なケースについて、こサポSSWを中心に、課題を抱える子どもと子育て世帯への支援方針を決定する
- 決定された支援方針に基づき、教職員やこサポ推進員が対象世帯に対してアウトリーチを行う

構成員

・校長 ・教頭 ・担任 ・養護教諭 ・SC ・こサポSSW ・こサポ推進員 等

区役所

- スクリーニング会議Ⅱへ参画する
- 担当の小中学校を巡回し、日常的な連携を通じて進捗管理を行う
- 地域資源の開発や状況把握に努める

➢ 教育分野の支援は、教職員やSC、こサポSSWが行う。

アウトリーチ



➢ 保健福祉分野の支援・地域による支援は、こサポ推進員がチーム学校と連携し、適切な支援につなぐ



こサポSSW(子どもサポートネットSSW)

➢スクリーニング会議Ⅱに参画し、中心となって支援方針を検討するほか、教職員やSC等と連携し、教育分野の支援を行う。

教育分野の支援

- チーム学校による教育的指導支援
- 学力支援

など

保健福祉分野の支援

- 保健福祉制度の説明や手続き支援
- 自立相談支援機関窓口の案内
- 各種関係機関の紹介

など

地域による支援

- 子ども食堂等のこどもの居場所の紹介
- 民生委員・児童委員・主任児童委員との連携

など



こサポ推進員(子どもサポート推進員)

➢スクリーニング会議Ⅱに参画し、決定された支援方針に基づいて、対象世帯にアウトリーチを行い、必要な支援につなげる

適切な支援につなぐ